



学生の声

私の会計事始

2008年度入学（会計専門職専攻） 植田 修子

自治体に奉職して10年になります。

これまで、職場経験を通じて行政のしくみやものの考え方を体得してきましたが、自治体で経理や監査といった業務に従事してきてしみじみ感じたことは、「役所には会計に精通している人間が本当に少ない」ということでした。

多くの自治体が財政難であること、そして時代の流れとして公会計改革が迫られていることを考えると、これらは今後大きな課題となるのではと思ったことが本学入学決意の第一のきっかけです。また、行政運営の中には不経済、非効率と言わざるをえないものが多く存在していることが分かり、その改善には経営の観点が必要だと考えたことも動機のひとつです。

さらに、行政運営の効果は利益と言うものさしでは測れないということも、本学でじっくり考えたいと思った大切な要素です。では、どんなものさしで、どのようにしてその効果を検証すればいいのか。今もその答えを求めて研究中です。

現在、平日に1～2日と土曜日に通学していますが、授業は聴講するだけでなく事前事後の学習も必須になるため、思った以上にハードな就学環境でした。ただ、地方自治体の会計に特化した専門職養成プログラムを置いているのは全国的にも本学だけであることから、高レベルで最先端の知識を得ることができ、時間と労力を割いて学ぶ意義は十分にあったと考えています。

何より、他団体の職員と研究仲間として毎週交流することができ、将来的にもかけがえのない仲間になれるようなことが、本当に入学してよかったと思っている点です。



異分野への挑戦

2008年度入学（会計専門職専攻） 勢馬 匠

薬局薬剤師として3年半働いた後に、会計大学院への入学。周りの人達からなぜ薬剤師を辞めて会計を勉強するのかと問われる毎日でした。

業界再編の動きが激しい医薬品業界や医薬品卸業界、当然それらと深く関わる医薬品小売業界もM&Aによる再編・グループ化が活発に行われています。私も薬剤師として働きながらも調剤薬局業界のシェア獲得のため合併・子会社化により会社の規模が拡大していく状況を目の当たりにしてきました。こういった背景もあって私は薬剤師として働く傍ら、企業のことをもっと学びたい、とりわけ企業の財務情報を知るために会計の知識が必要だと思い勉強することにしました。



しかし、足も踏み入れたことのない未知の分野である会計、独学で理解するには限界がありました。中途半端で終わらせたくはなく、会計をプロフェッショナルのレベルまで学ぶためには会計を専門的に学べる場に行く必要があると思い、薬剤師を辞め心機一転して会計大学院の道へ進むことを決意しました。

会計大学院には、様々な大学の出身者、経理事務所や工場で働いていたなど様々な分野の人達がいいますが、皆プロフェッショナルになるため必死に自分を磨いています。薬剤師という異業種からの転身をなんらハンデと感ずることなく学べる環境に大変満足しています。薬学と会計学の知識を同時に持つことでこれまで体験する事なかった新たな道が開けるよう日々切磋琢磨していきたいと思っています。